



一般書 スマホに負けない子育てのススメ

今の子どもたちの生活とスマホは、切っても切れない関係にある。スマホをうまく「使いこなす」人にわが子を育てるには。スマホのルール作りからトラブル解決、スマホに負けない子育ての秘訣までを具体的に呈示する。

諸富 祥彦 著
(主婦の友社)



一般書 世界の教科書に見る昔話

教材として教科書に頻繁に取り入れられてきた昔話。外国の教科書事情と比較し、日本の伝統教育の特色を明らかにする。二〇一六年十一月開催の東京学芸大学フォーラムの講演やシンポジウム、教科書の昔話事典なども収録。

石井 正己 編
(三弥井書店)



児童書 すきま地蔵

(小学校低学年向け)

ビルのすきまから出られなくなつたお地蔵さん一家に、おつかいを頼まれたボク。赤ん坊にヨダレかけを届けたり、次はスーパールのレジのおばさんにお花を届けて…。ボクは困っている人を助けるために、東西南北の町へ行く！

長谷川 義史 絵
(MOEのえほん)

おはなし会

町内2つのボランティアグループによる楽しいおはなし会を開催します。

11/17 ゆめっ子のおはなし会

▶とき 11月17日(土)
午後1時30分から
▶ところ 社会教育センター
幼児遊戯室
▶対象 小学校低学年、幼児

11/8 おひさまのおはなし会

▶とき 11月8日(木)
午前10時30分から
▶ところ 総合福祉センター
南館ひまわり
▶対象 乳幼児

▶問合せ いずれも、
社会教育センター図書室
☎28・5449

豊山俳句クラブ

青山克己 選

坪井昭子
月、天心黙つて照らすしじまかな

杉浦みどり
手花火の少女袂をつかみある

坪井径子
病棟の長き廊下や夜半の月

青山とも子
猫の目の見据へし先に秋がある

水野真弓
遠山と繋がっている鯛雲

谷崎 琴
ただ風とつくつくぼうし多賀城跡

豊山歌壇

水野笑子 選

渡辺トヨ子
野良猫も毎日出会へば慣ひとて
餌の器の前に待ちをり

荒川昌枝
生き物の命危ふきこの熱波
人類の生活見直す時か

安藤定岳
この暑さ「暑い」が口癖四〇度
従来通りに夕立よ来い

一柳千鶴子
記憶にも記録にも残るこの猛暑
くらしも生きものも変わりゆくらし

井上とよほ
神秘なる明神池の佇まひ
自然の妙味も観光化されて

岡島 齋
畑小屋にまだ在る馬鋏昼の虫

高木須磨子
見てごらんちぎれて雲が秋になる

山下敬太
涼やかに響く挨拶始業式

黒澤裕子
山の木々紅葉と共に染まりゆく

田村多喜子
灯を消してちちろの闇の一人なり

石黒貴代子
終電車ひと駅ごとの虫時雨

青山克己
ゑのころに人の気配の風立ちぬ

木村和子
軒借りてしのつく雨をさけて立つ
幼き頃の夕べ町角

小出寿枝
言葉出ぬあれそれこれと話す我ら
年をとりにしと友と笑ひぬ

佐藤良子
白々と鶯草の花ひらきたり
羽をひろげて飛び立つやうに

柴田満枝
夕立ちて馬の背分かつ岐
雨降り続く愛知は日照り

鈴木久子
突然の夕立のあり雨粒は
ビー玉の如跳ね返りをり

編集後記

スマートフォンやタブレットの音声アシスタントに「眠れない」とつぶやく。呼吸法や羊の数を数えるといった返事がくる。しかし、眠れないとき人が求めるのは、どうしたら眠れるかという方法であるとは限らない。悩みごとなどを吐露する話し相手を求めているのが本音のこともある▼「受け手は村民である」という概念的なものではなくて、よろこんだり、悲しんだり、怒ったり、感情を持っている人間であるということを感じて、編集し発行していただきたい▼これは、五十年前の広報とよま第一号に寄せられた、当時の豊山中学校教諭、鈴木俊雄氏の言葉である。巻末をご覧になってお気づきの方もいるだろうか、今月号で広報とよまは通巻六百号を迎えた▼この半世紀の間、技術は急速に進歩した。AIといわれる人工知能は、今後ますます幅を利かせるだろう。機械的なお知らせ広報であれば、AIでできる。しかし、広報は、町民の皆様と町との貴重な接点である。信頼関係を築くためには、真摯で丁寧、思いやりのある広報が欠かせない▼今後も、紙面の向こうの皆様を常に意識し、気持ちに少しでも寄り添うことのできる広報紙を目指していきたい。